

医療と税金とこれからの私

八王子市立由井中学校

三年 岡田 夏芽

私は小学四年生の時、学校の健診で病気が見つかり、翌年約十時間にもわたる大手術を受けた。風邪を引くことすら稀だった私にとって、それは『晴天の霹靂』だった。退院の日、母は領収書を見て「五〇〇万円の大手術だったのね」と呟っていたので、私は不安な表情をしてしまった。それを察して母は「保険料や税金を納めているから手術代は払わなくていいんだよ。ありがたいね。」と言った。「不思議な仕組みだなあ。」

と思ったのと同時に、ホッとしたのを覚えている。人の一生は様々な大きな病気をせず終えられる人もいれば、生涯病気と戦い続ける人もいる。自分がいつ、どんな病気になるか知っている人はいないので、完璧に備えることは難しい。だが、我が国の医療は、私のように『晴天の霹靂』がいつ、誰に訪れても、等しく助けてくれる仕組みになっていて、そのために税金が使われているのだと知った。

学校の健診にも税金が使われているが、日本のように学校健診制度が整っている国ばかりではない。私の病気は自覚症状がなく、年一回の健診がなければ発見は難しかったと思う。病気を早期に発見でき、たくさんの子供を救えるこの制度は世界に誇れると思う。

一方、高齢化等の理由で医療費は増え続け『増税』が必要という声もある。物価高や社会保障負担が重く、既に余裕のない生活をしている今、増税は得策だろうか。

健康は医療によってのみ守られるわけではない。お金がなく人間らしい生活ができなくなれば、健康ではいられない。例えば『健康的な食べ物』より『安い食べ物』が優先されたり、稼ぐために労働時間を長くして、睡眠時間を削り、心身に影響が出たりする。それでは本末転倒だろう。

私は『増税』ではなく『無駄を減らす』ことが先決だと思う。特に私が気になったのは残薬問題だ。コロナ禍において、大量のワクチンや治療薬が数千億円分も使われずに廃棄されたと聞いた。また、大量処方により薬を使い切れない高齢者が多く、年間数百円の無駄があるというデータも見た。日本では医療へのアクセスが容易なので「病院に行けば大丈夫」「薬で治せばいい」と容易に考えがちだ。高血圧や糖尿病などは、食事や運動など生活習慣の改善で、薬に頼らず治ることも多いと聞く。限られた医療資源を安易に利用しないことで、増税せずとも、維持することはできるのではないだろうか。

私は税金を納めてくれた人達に助けられ、手術をする前とほぼ変わらない生活ができています。この恩は将来元気に働いて、納税という形で返していきたい。しかし、そのお金は本当に必要なことに使ってもらいたい。そのために私は、政治に関心を持ち、学び続けていこうと思う。税金の不適切な使い方や不必要な増税には「NO」と言えるように。そして、本心に必要の人に届くように。

未来を支える 税の力

東京都立南多摩中等教育学校

三年 野澤 愛 由

「税」と聞くと、多くの人は何を思い浮かべるだろう。私自身、これまで税に対してあまり良いイメージを抱いたことがなかった。なぜなら、どんなものにも税金がかかり、持つていかれるお金というイメージが強かったからだ。けれども、少し前に私は税制度の本当のありがたさを知った。

今年度の春、私は大きな試験を乗り越え、東京都教育委員会が実施している「次世代リーダー育成道場」というプログラムに研修生の一人として選出された。このプログラムは、世界を舞台に活躍できる国際感覚豊かなたくましい若者を東京から輩出していくことを目的とした、都立高校生向けの留学支援制度である。幼いころから英語を通して人と関わるのが好きだった私にとって、海外留学は一つの大きな夢だった。しかし、留学には多くの費用がかかる。渡航費や生活費、保険料やパスポート、ビザ等の申請料など、決して安いものではない。そのため、以前まで「社会人になってお金があったら留学したい」と考えていた。ところが、このプログラムで留学にかかる費用は想像以上に安価だった。なぜなら、その費用の多くが都民の税金によってまかなわれているからだ。都に納められた莫大な税金は、私たちの教育や未来のために使われていた。私はそれ

を知って衝撃を受け、感謝の気持ちで溢れた。また、それと同時にリーダーとしての強い使命感を覚えた。

税金によって、若者が未来のリーダーになることを目指し、留学を通して様々な学びや能力を得ることができている。もしも税制度がなかったら、経済的な理由により自分の夢や目標を諦めざるを得ないという人も少なくないだろう。顔も名前もわからないような人が納めてくれた税金が、私たちの夢や将来を支える「土台」となっているのだ。これに気付いてから、税について深く考えるようになった。新学期に配布される無償の教科書、病院で請求されるわずかな費用、いつの間にか綺麗に改修された道路など、私たちの生活は、たくさんの「税」で支えられている。こうした事実を、より多くの人々が認識するべきだと考える。そうすることで、少しずつ税への関心が高まり、税に対するマイナスイメージが薄れていくと思う。私たち一人一人が税の意義を理解し、大切に使うこと、そして今自分たちができる範囲で社会に貢献する努力をすることこそが、より良い社会を築く第一歩なのではないだろうか。

まだ中学生である私は、日常生活で税に深く関わることはあまりない。けれども、未来の納税者として、税金の正しい知識を身につけ、その必要性をよく理解しておくことが重要だと考える。今のうちから経済の動きに目を向け、税の恩恵に感謝し、税金を大切に使う意識を持ち続けたい。そして社会人になった時には、納得した上で、責任を持って納税の義務を果たせるようになりたい。

陰のヒーロー

八王子市立第五中学校

三年 岡村 綾紅愛

私は、小学校三年生の時から野球をやっている。チームメイトの男の子達と同じ様に、甲子園に行きたいと夢を書いた私に母は「女の子は甲子園に出られないんだよね」と言った。中三になった私は変わらず野球をやって、甲子園を目指している。女子硬式野球部のある高校に進学し、全国女子硬式野球選手権大会で甲子園に行くことが夢だからだ。

女子硬式野球部は男子と違って圧倒的に進学先が少ないために、全国の色々な高校に体験入部に行っている。ある体験先の学校で「この学校がある地域は限界集落のため、この地域に通う生徒のために市や地域の企業が沢山の補助をしてくれる」と説明があった。県外の生徒の下宿費用の補助や、県内の生徒の通学バスの補助等があると言う。決して裕福ではない私の家では、それらの補助はすごく助かる制度だ。

税金と聞くと、聞くだけでマイナスなイメージがある。ある映画で滞納した税金を徴収する主人公が罵声を浴びているシーンを見た。

まるで滞納した側ではなく、税金を取る側が悪い人のように感じた。そんなシーンを見てもあり得ないと違和感を覚えなないのは、皆んな税金に対してマイナスの印象があるからだ。

きっと税金は国民の払いたくないものの一番だと言っても過言ではないと思う。

しかし今、その税金のおかげで、私は甲子園の夢を諦めないで済むかもしれないと思う税に対して助けてもらうことへの感謝の気持ちしかない。もしかしたら、今までも気づかなかっただけで、私は税金によって夢を応援してもらっていたのかも知れない。そう思っただけでみると、私の住んでいる市では、いつでも安全に使える野球グラウンドが、どの地域の子供たちも使える様に色々な場があり、使用料が無料のところも少なくない。これらは全て税金で作られたものである。

また、私は低体重出生児として生まれた。

NICUから退院してすぐに重度の小児喘息を発症し、その後何度も入院や治療薬に、ほとんどお金を支払っている母の姿を見たことがなかった。

これは大気汚染医療費助成制度によって、費用のほとんどが賄われていたためだ。この制度のおかげで、私は十分な治療を受けて、野球に打ち込める体になることが出来た。

野球や喘息は、日本に住む誰にでも当てはまることではない。母が居ない決して裕福ではない私の家で、兄弟も私と同じ様にそれぞれ夢に全力になれるのは、色々な形となってどんな人も平等に支えてくれる税金という陰のヒーローが居るからだと思つた。

全力で夢を叶えたら、次は私が税金を支払うことで誰かの夢を応援できる様な陰のヒーローになりたいと思つた。

八王子市の税金と観光のまちづくり

八王子市立打越中学校

三年 紺野 祐生

私たちの住む八王子市は、東京都の中でも自然と都市が調和したまちです。高尾山をはじめとする豊かな自然や、古くからの歴史と文化が残る地域として、多くの人々が観光に訪れています。その背景には、市民が納める税金が観光資源の整備や活用に使われていることがあります。私は、八王子市の税金が観光にどのように役立てられているのかについて考えてみました。

八王子市の三つの柱として掲げた方針の一つに「観光資源を活用したにぎわいの創造に向けた取り組み」があります。その中で代表的なものは、日本遺産である高尾山周辺の文化観光の推進です。高尾山は年間三百万人以上が訪れる世界的にも有名な観光地ですが、登山道の補修や安全対策、案内板や休憩所の設置には税金が使われています。こうした整備によって訪れる人々が安心して自然を楽しめるだけでなく、観光客が増えることで地元のお店や宿泊施設の経済も活性化します。税金が地域の魅力を守りながら、まち全体の二匹気につながっているのです。

次に、市内で行われる観光イベントへの活用です。八王子まつりやいちよう祭りは、市民にとっても楽しみな行事であり、

観光客を呼び込む大きな力になっています。これらの祭りの運営費や安全管理にも、税金が使われています。大きな祭りがあること、まちの知名度が上がり、遠方からも人が訪れます。私はいちよう祭りで全国のグルメが並ぶ屋台を見て、八王子が全国とつながっていることを感じました。観光を通して、市民が誇りを持てるのも税金の支えがあるからだと思っています。

さらに、八王子市は伝統文化や歴史的建造物の保存にも税金を活用しています。八王子・中町には、多摩地域で唯一残る花街があります。黒堀通りの街並みと柳の情景、そして現在も活動を続ける芸妓さんたちの存在が、貴重な景観として残されています。

歴史的景観を維持することや、桑都アラスから伝統文化の発信をすることも大切な税金の使い道です。観光客が歴史を学べるだけでなく、私たち市民も郷土への理解を深められると思います。

観光に税金を使うことは、単に「遊び」のためではありません。観光客が増えることで地域経済が潤い、その収益がまた公共サービスに還元されます。私たちが納めたお金が、未来の八王子をより魅力あるまちに変えていると考えると、とても意義深いと思います。

私はこれからも市の観光事業に注目し、どのように八王子が発展していくのかを見届けたいです。そして大人になったら、自分が納める税金がまちの発展につながることを意識して生活していきたいと思っています。

見えないところで支えるお金

八王子市立檜原中学校

三年 澁谷 零 月

私は税について考えると、まず父のことを思い浮かべます。父は以前、消防士として働いていました。火事や事故が起れば昼夜問わず出勤し、人の命を守るため全力を尽くしていました。深夜に電話が鳴り、慌ただしく制服に着替えて出ていく背中を見送りながら、私はいつも少し不安で、そして誇らしい気持ちになっていました。

消防車や救急車は、誰でも無料で呼ぶことができます。ですがそれは、「ただ」ではありません。燃料代や整備費、救急隊員や消防士のお給料など、そのすべてが私たちが納めている税金によって支えられています。もし税金がなければ、出勤するたびに高いお金を払わなければならないかもしれません。それでは、いざというとき助けを呼べない人が出てしまいます。

父はよくこう言っていました。

「自分の給料は、国民のみんなから預かっている大切なお金だから、全力で働かなきゃいけない。」

その言葉を聞いて、税金はただ集められるだけではなく、人の命を守るために生きた形で使われているのだと気づきました。ある日、父が救助した人の家族から「助けてくれてありがとう」と手紙をもらったことがありました。そのとき父は、

「これは自分一人の力じゃなくて、みんなの税金があったからできたことなんだよ。」と話してくれました。私はその言葉に胸を打たれ、税金は単なるお金ではなく、社会を支える絆のようなものだと感じました。

私たちの生活をよく見渡してみると、税金に支えられているものがたくさんあります。学校の校舎や教科書、道路や公園など、ほとんどのものが税金で作られ、維持されています。普段は意識しませんが、当たり前のように使っているものの多くが、実は誰かの税金によって支えられているのです。

もちろん、税金の使い方についてはニュースで問題になることもあります。無駄な支出や不公平な制度があれば改善するべきです。しかし、それは税金そのものが悪いということではありません。大切なのは、みんなが納得できるように、そして未来をよりよくするために正しく使われることです。

私はまだ税金を払う立場ではありませんが、いずれ社会に出て働くときが来ます。そのとき、自分が納めるお金が、困っている人や社会全体の安全のために役立つと思えば、誇らしい気持ちになれるはずです。私は、災害があっても誰一人取り残されない社会、誰でも安心して助けを呼べる社会のために、自分の税金が役立ってほしいと思います。父が、命を守るため汗を流していたように、私も社会を支える一人として責任を持ちたいです。

税金は、みんなが社会を支え合う大切な仕組みです。この仕組みを大切にして、未来を守りたいと強く思います。

見えない絆

八王子市立城山中学校

三年 曾根田 直 希

私たちが日々を過ごす中で、税金という言葉はよく「支払うべきもの」「負担」といった否定的なイメージで語られがちです。しかし、果たして本当にそうでしょうか。私は、税金は単なる金銭的な取引ではなく、私たち一人ひとりが社会という共同体に属していることを示す、最も大切な「見えない絆」なのだと考えるようになりました。それは、国や自治体と国民の間で結ばれた、未来に向けた静かな約束に他なりません。

この見えない約束を、私たちは意識せずに交わしています。朝、学校へ向かう道で信号機が機能していること。夜、安心して眠れるように警察官や消防士が待機していること。これらはすべて、私たちが納めた税金によって支えられています。税金は、誰かの善意や偶然に頼るのではなく、社会全体でリスクを分かち合い、安定した基盤を築くための共通の財布なのです。まるで、一人では持ち上げられない重い荷物を、みんなで少しずつ分担して運ぶようなものです。この共同作業が私たちの生活を支え、未来へ繋いでいくのです。

税金の役割は、目に見える公共のサービスだけにとどまりません。例えば、遠い宇宙を探索する科学技術の研究や貴重な文化財を後世に伝えるための修復・保存活動も、税金によって成

り立っています。また、近年頻発する自然災害からの復旧や、病気になった時に適切な医療を受けられる仕組みも、この「共通の財布」があって初めて機能します。これらは、私たちが単に現在の利益を得るだけでなく、遠い過去から受け継いだものを守り、まだ見ぬ未来を創造するための「投資」でもあるのです。

しかし、このシステムが健全に機能するためには、私たち国民と、その税金を管理する政府との間に「信頼」が不可欠です。透明性のある使われ方がなされ、無駄なく効率的に運営されること。そして、私たち一人ひとりが、社会の一員としての責任を自覚し、納税の義務を果たすこと。この双方の信頼関係が崩れてしまえば、社会の土台は揺らぎ始めます。税金を納めることは、単なる義務ではなく、「私はこの社会の担い手である」という自覚と責任の表明なのです。

税金とは、私たちが生きる社会という巨大なパズルを完成させるための、小さなピースの一つです。その一つひとつが、見えないところでしっかりと繋がり、私たちの生活を支え、未来の世代へ希望を繋いでいます。今日まで当たり前だと思っていた公共サービスが、実は私たち自身の「見えない絆」によって成り立っていることを知ることは、私たちが社会の一員として、どれほど大きな役割を担っているかを知る第一歩です。これからの時代を生きる私たちにとって、税金は、より良い社会を共に創り上げていくための、最も身近で大切な道具だと私は思う。

支出を確認する義務

八王子市立横山中学校

三年 中 本 慧

何らかの会員であると、会費を支払わなければならない。身近なところでは、PTA会費や町内会費の支払いがある。

ところで、今在学している中学校のPTA会費や、今住んでいる地区の町内会費が値下げされた。理由はいろいろあるようだが、その一つに、PTAや町内会に加入しない人が増えており、加入しない理由の一つに会費が高いと感じることがあるようだ。値下げにより加入者が増えることが期待されている。

会費を値下げするために、PTAも町内会も、活動の見直しをした。例えば、会報を廃止したり、イベントの回数を減らしたりしている。このことから、PTAや町内会の会費つまり収入を減らすためには、支出も減らす必要があることが分かる。支出の減らし方については、PTAや町内会の役員が考え、会員の了承を得ている。

では、ここで税金を国民に対する「会費」と仮定する。

PTAや町内会と違い、国民には納税の義務があると日本国憲法第三〇条で定められている。PTAや町内会には、入会しないという選択肢があるが、国民には国民にならないという選択肢はない。よって、「会費」と仮定した税金は、必ず払わなければならない。そこが会費と税金の大きな違いである。

一方で、両者には共通点もある。それは、支出を抑えて会費を値下げしたり、逆に支出を増やすために会費を値上げしたりすることだ。国民の「会費」である税金の税率は、国や自治体の支出（歳出）の総額によって決まる。財務省の資料を見ると、国の歳出は年々増加しているが、二〇二〇年の歳出はそれまでと比べて明らかに右肩上がりとなっている。おそらく、新型コロナウイルス感染症拡大への対応で、歳出が増えたのだろう。

国民には納税の義務があるが、同時に、支出、つまり税金の使い道についての関心を持つ義務もあると考える。支払われた税金がどのように使われているか、国は当然公表している。しかし、税金の使い道を確認する人は少ないかもしれない。

町内会費の値下げにより楽しみにしていたイベントが廃止されたことを会員が知れば、値下げするのがよいか、しないほうがよいか、考えるきっかけになる。最終結果としての値下げ・すえ置き・値上げだけで終わらず、使い道まで知った上で値下げ・すえ置き・値上げを考えるほうが、一般会員もPTAや町内会に関与することができる。

同じように、税金でも国民はもつと関与する必要がある。改善策の一つとして、現在小中学校で行われている租税教室において、税金の使い道についても説明することを提案する。具体的に税金がどこにどのくらい使われているかを、実際のデータに基づいて具体的に説明することで、児童生徒の税金に対する関心が高まることが期待できる。

税が織りなす社会の絆

八王子市立檜原中学校

三年 松田 礼

私たちが日々当たり前のように享受している社会の恩恵——安全な道路、充実した教育、医療機関、そして災害時の迅速な対応。これらすべてを支えているのが「税」である。税と聞くと、難解な制度や負担といったイメージが先行しがちだが、その本質は、私たち一人ひとりが社会の一員として、ともに未来を築くための「絆」であると私は考える。

税の役割は多岐にわたる。最も分かりやすいのは、公共サービスの維持・向上だ。私たちの生活に不可欠なインフラ整備から、高齢者の補助金に至るまで、税は社会のあらゆる側面を支えている。もし税がなければ、これらのサービスは個人の負担に委ねられ、社会全体として質の低下や格差の拡大を招くことは想像に難しくない。誰もが等しく機会を得て、安心して生活できる社会は、税によって初めて実現されるのだ。

また、税は経済の安定化にも寄与する。好景気時には税収が増加し、それを社会保障や公共事業に充てることで、景気の過熱を抑制し、一方で不景気時には減税や給付金などで消費を刺激し、経済の回復を促す役割も担っている。このように、税は単なる徴収システムではなく、経済状況に応じて柔軟に対応し

、社会全体の安全を保つための重要な調整弁なのである。

しかし、税の重要性を理解しつつも、その負担に対して疑問や不満を抱く声があることも事実だ。なぜこれほど多くの税を納めなければならないのか、本当に私たちの税金は有効に使われているのか、といった疑問は常に存在する。だからこそ、税の使途に関する透明性の確保は極めて重要である。政府や地方自治体は、国民が納得できる形で税金の使い道を説明し、説明責任を果たす必要がある。私たち納税者もまた、単に支払うだけでなく、その使途に関心を持ち、積極的に意見を表明していくことが、より良い税制、ひいてはより良い社会を築くために不可欠だろう。

現代社会は、少子高齢化、環境問題、グローバル化といった様々な課題に直面している。これらの課題に対処するためには、これまで以上に税の役割が重要になってくる。例えば、地球温暖化対策のための環境税や高齢化社会を支えるための社会保障費など、新たな社会ニーズに対応するための税制の存り方も常に議論されなければならない。未来の世代に持続可能な社会を引き継ぐためにも、私たち現世代が税を通じて果たすべき責任は大きい。

税は、目に見えないが、確かに私たちの社会を支え、未来を形作る重要な要素である。それは、単なる義務や負担ではなく、社会の一員としての「共助の精神」の具現化であり、私たちの社会がより豊かで、より公平なものとなるための「絆」なのだ。この絆を大切にし、税の意義を深く理解することで、私たちはより良い未来を共に創造していくことができるだろう。

税金が作る当たり前の暮らし

東京都立南多摩中等教育学校

三年 雨宮 芽生

私は福生市に住んでいる。福生市には多摩川が流れていて、川沿いには春には桜、夏には鮮やかな緑色の葉を見せてくれる木が植えられている。しかし、その川の様子が凶変した。平成三十年七月豪雨で多摩川が氾濫していたのだ。まだ小学二年生だった私には多摩川の変わり様に衝撃が隠せなかった。

その後しばらくすると工事が始まった。まだ幼かった私は、今まで通りに戻って川で遊びたい、現場作業員の方たちに頑張つて欲しいという考えしかなかった。しかし、小学校高学年になり、ようやく工事が終わると、「こんなにも広い敷地を何年もかけて工事をすれば莫大なお金がかかるはずなのに、そのお金はどこから出ているのだろう。」と疑問に思い、調べることにした。すると、その多くは税金で支払われているということが分かった。消費税くらいしか納めたことのない私は他にもどのような税金を国に納めているのか知らなかったため、さらに深く調べた。働いている人が納める所得税、住んでいる場所に納める住民税など、様々な人々が支払った税によって私たちの暮らしが支えられていることが分かった。

もし川の工事がされていなかったら、また同じ被害にあったかもしれない。しかし、税金を使った工事のおかげで、安

全に暮らしたり、今まで通り市民が川周辺で自然を感じることや、子どもたちが川遊びをすることなど日常生活を楽しんだりができるようになった。つまり税金が使われることで、安心して生活できるようになったのだ。自分や家族、地域の人々の安全が守られているのは税のおかげだと実感した。

この出来事をきっかけに、私は身の回りにある税金の働きにも目を向けるようになった。たとえば学業である。私が通っている学校の校舎や教室、机や椅子、教科書までも税金でまかなわれている。毎日当たり前のように字べるのは税金のおかげなのだ。また、なくなってしまう生活が不便で危険なものになつてしまうごみの収集や信号機、交通整備も税金によつて支えられている。安全面では消防や警察の活動もある。私たちは事故や災害があつてもお金を払わずに助けてもらえる。

このことから、税金は私たちの暮らしの土台となり支えられていることが分かる。税金は教育、福祉、安全、環境、文化など全てにおいて密接に関わっている。そして税金が暮らしを支えられているのも、税金を納めてくださっている方々のおかげであるということを忘れずに、感謝しなければならぬ。

川の氾濫による工事をきっかけに私は税金の役割を強く意識するようになった。これからは身近な所にある税金に目を向け、自分が大人になったときには税金は「社会を成り立たせ、支え合うためのお金」と理解し、よりよい社会を築いていく一員になれるよう頑張っていきたい。

日本の祭りを守るために

八王子市立松が谷中学校

三年 茂 木 柚 仁

地域の人々によって大切に受け継がれ、その土地の歴史や風俗などが刻み込まれた日本の伝統行事、祭り。私も地域で開催される祭りに毎年必ず参加し、そこで神輿を担ぐ役割を担っている。神輿を担ぐためには、体力も精神力も必要で、神輿を担ぎ終えたときの心身の疲労は相当なものだ。しかし、それ以上に「地域のみなさんと協力して一つのことを打ち込んでいる」という一体感と、「伝統を守っている」という誇りを感じるこの時間は何にも代えがたいものである。今年も地域のみなさんと神輿を担いだ。担ぎ終えた後、充実感に満ちた表情でお互いの頑張りを労っている。ふと粋な姿の神輿が目に入った。いつ見ても輝かしい神輿の姿。担いでいるときは無我夢中で気にならなかったが、毎年担いでいるにも関わらず、なぜ神輿は勇ましい姿を保っているのかという疑問がわいた。

調べてみると、祭りを盛り上げる神輿や山車などの文化財の維持・管理にかかる費用には、文化芸術振興補助金が交付され、そのお金は私たちが納めた税金から充てられていることがわかった。そもそも、この文化芸術振興補助金とは、「担い手や資金の不足を克服する取り組みを行う団体に対して、用具の修理や後継者の養成など地域の伝統行事の基盤整備に必要なお

金を支援し、地域活性化を推進すること」を目的としている。すなわち、地域の伝統や文化を残すための取り組みに対して、国が税金を活用して支えてくれているということである。地元企業の協賛金や奉納金だけでは十分に賄いきれない部分を、国家が支えてくれていることで、地域の伝統行事が守られている事実を知り、私は税金に対する見方が大きく変わった。

一方、新型コロナウイルス感染症の拡大によって、全国的に祭りがなくなり、感染症が収束した今でも、神輿の担ぎ手を含む祭りの担い手が不足しているという問題が深刻化している。また、そのような状況に追い打ちをかけるように、文化芸術振興に充てる予算も縮小傾向にあると言われている。感染症対策を含めた社会保障費、子どもたちの学びを支える教育費、日本を守るための防衛費など税金を使うべき分野はたくさんある。しかし、私は、人と人とのつながりがこそが日本を盛り上げる原動力であり、そのつながりを像徴する祭りを残していく取り組みを支援することが求められるのではないかと考える。外国にはない日本独自の文化、日本のアイデンティティともいえる祭りを守り、そこに受け継がれる伝統や文化を誇りに思う機会をなくさないためにも、まずは私自身も神輿の担ぎ手として、納税者として、自らの役割を果たしていきたい。

救いの手

八王子市立由井中学校

三年 藤丸 祐禾

私たちのまわりには、学校や病院、道路や公園などの多くの「当たりまえ」があります。それらの多くは、私たちから集められた「税金」によって支えられています。

私たち国民の生活の支えられかたの一つとして「福祉」があります。福祉とは、すべての人が安心して暮らせるように社会が支える仕組みのことです。高齢者の介護、障がいのある人への支援、一人親家庭へのサポートなど、福祉はさまざまな場面で、さまざまな人々を支えています。これらの活動の多くは税金によって成り立っています。税金がなければ、こうした支えを受けることができない多くの人々が困ってしまうのです。

私は、映画「あんのこと」を見たとき、福祉の本当の意味とその先にある「税金」の重みを深く考えさせられました。映画「あんのこと」は、過酷な環境の中で生きる少女・杏が、福祉や支援に出会いながらも、最後には命を落としてしまうという実話に基づいた物語です。彼女の姿からは、「助けて」と声をあげることの難しさ、そしてそれに気づいてもらえない苦しさ、が伝わってきます。同時に、福祉がどれだけ人の命や尊厳を守るか、あるいはそれが届かないときに何が起るかを、私たちに突きつけています。

杏のように、毎日の生活のなかで苦しんでいる人たちは、実は私たちのすぐそばにいるかもしれません。しかし、自ら「助けて」と声をあげられない人も多くいます。私は映画を通して、そうした『見えない声』に社会全体がどう向き合えるかが大切だと感じました。

そこで考えたのが、税金の使い道です。

税金と聞くと、最初にかいた通り学校や病院などのイメージが強くなると思います。しかし、生活に困っている人を支える福祉、また、子どもたちの学びや安心を守るためにも税金は使われています。たとえば、一人親家庭への支援や子ども食費、生活保護制度などもその一つです。もし、杏がもっと早く安心して頼れる場所や大人に出会えていたら、彼女の人生は少し違っていたかもしれない——私はそう思わずにはいられません。彼女のように命を絶ってしまう人がこれ以上増えないためにも、ただ税金を納めるだけでなく、どのように、誰に、どう届くかを私たち一人一人が考え続けていくべきだと私は思います。

また、私たちが望むかたちで税金が使われていくためにも、政治に興味を持ち、成人済の方々には選挙へ足を運ぶということも、とても大切だと考えます。

税金は見えにくい場所にいる人たちにも届く「救いの手」であってほしい。私はこれからも税金や福祉に興味・関心を持ち、社会の中の小さな声を耳をすませられる人でありたいと思います。

税金がつなぐ、安心と未来

八王子市立高尾山学園

三年 塚 本 陽 美

私は毎日、舗装された歩道を通って学校へ向かう。途中には街灯があり、雨の日でも水たまりができにくい道が続いている。そんな何気ない風景の裏に、税金の存在があることを知ったのは、中学校の公民の授業だった。税金は道路や橋の整備だけでなく、私たちの暮らしのあらゆる場面を支えている。

税金の一番の良さは、誰もが平等に必要なサービスを受けられることだと思う。たとえば教育。私の通う学校の教室、机や椅子、教科書もすべて税金で用意されている。もしこれらがすべて自己負担だったら、経済的な理由で学校に通えない人が出てしまうだろう。税金のおかげで家庭の事情に関係なく、誰もが学び、夢に向かって努力することができる。

医療も同じだ。以前、祖母が体調を崩して救急車で運ばれたことがあった。迅速な対応のおかげで大事には至らなかったが、救急車の利用は無料だった。これも税金で運営されているからだ。病院の建物や医療機器、健康保険制度の一部も税金で支えられている。もしお金がないから治療を受けられないという社会だったら、多くの命が守られないだろう。

税金は、平和な日常だけでなく、困難な時にも力を発揮する。ニュースで見る災害現場の復旧工事や被災者への支援金も税

金によって賄われている。自分が直接被害を受けていなくても、同じ社会の一員として支え合えるのは、税金という仕組みがあるからだ。

さらに、税金は未来をつくる投資でもある。自然公園の保全や海や川の水質改善、森林の再生など、環境を守る取り組みにも使われている。これらは今を生きる私たちだけでなく、未来の世代にも恩恵を与える事業だ。一人の力ではできない大きな目標を、社会全体で実現できるのが税金の強みだ。

私は税金を「見えない橋」だと思っている。今の生活と未来の安心、そして人と人との思いやりをつなぐ橋だ。日々の生活でその存在を意識することは少ないけれど、その橋があるからこそ、私たちは安心して歩いていける。

まだ中学生の私は、直接多くの税金を払っているわけではない。しかし、すでにその恩恵を受けながら生活している。将来働くようになったら、今度は支える側になる。そのとき、ただ義務として税金を納めるのではなく、「この橋を未来につなぐため」と考えられる大人になりたい。

税がつなぐ、もう一度のスタートライン

八王子市立第六中学校

三年 松尾航汰

「おかえり。」兄が就労移行支援事業所から帰るたび私はその声をかけます。以前の兄は、病気の後遺症で働けず、家で過ごす時間 多く、笑顔も減っていました。そんな兄を見て私はどうすれば元氣になってくれるのだろうか、ずっと心配していました。

転機は、兄が就労移行支援事業所に通い始めたことでした。最初は不安そうにしていた兄も、少しずつ変わっていききました。パソコンで書類を作る訓練、名刺交換や電話対応の練習、仲間とのグループ作業。できることが増えるたびに兄は、「今日は上手くできた。」と落ち着いた表情で話すようになりました。

私はある時、事業所の仕組みを調べてみました。利用者が社会に戻る為の訓練や支援が行われ、その運営費の多くは税金でまかなわれていると知りました。税は道路や学校だけでなく、人の人生を立て直す為にも使われているのです。兄が再び働き夢に向かって歩き出せたのは、多くの人が納めた税があったからだと思うと、税の存在がとても身近に感じられました。

就職が決まった日の兄は、緊張と期待が入り混じった表情をしていました。社会に出た今も、事業所の職員の方が定期的に

連絡をくれ、職場での悩みや課題と一緒に解決してくれています。こうした就職後のフォローも税によって支えられており、長く働き続ける為の大きな支えとなっています。

税が使われるのは福祉だけではなくありません。私達が毎日通る道路の整備や、信号機や街灯の設置、図書館や公園の運営、災害時の緊急支援、未来の為の環境保護や新しいエネルギーの研究など、幅広い分野で私達の生活を支えています。

今年の夏、ニュースで他県の町が大雨による水害にあったことを知りました。川があふれ道路が通れず、避難所で多くの人びが不安な夜を過ごしました。自衛隊や消防、ボランティアが泥かきや食料・水の配布を行っていました。こうした活動にも税が使われています。もし税がなかったら、困っている人達への支援は、こんなにはやく行われなかつたかもしれません。

私は思います。税は単なるお金ではなく、困ったときに差し伸べられる「見えない手」のようなものだ。兄の背中を押し、被災地の人々を支え、子供や高齢者の生活を守る。そんな力が税にはあるのです。

私は将来、税を納める立場になったら、「自分の税金が誰かの希望になっている」と胸を張って言えるようにしたいです。そして、その使い道にも関心を持ち、自分の暮らす町や国がよりよくなる方法を考え続けたいと思います。税は過去と未来をつなぎ、人をもう一度スタートラインに立せる力になります。その価値を忘れず、私もその支える側の一人になりたいと思います。

無料の本当の意味

八王子市立上柚木中学校

三年 清水 結 香

「これ、無料なんだ」そう思い、得をした気持ちになることがある。しかし最近、「本当に無料なものってあるのだろうか?」と考えるようになった。調べると、無料と書かれたサービスの裏には、税金が使われていることが多いそうだ。無料と感じているだけで、社会全体が負担してくれている、という意味なのだと感じた。

私たちの身の回りには、そうした「無料に見える」サービスがたくさんある。例えば、毎日通う学校では、教科書は無料で配られ、授業料も払っていない。体育館や図書室など全て自由に使える。図書館では本を無料で借りられ、冷暖房のきいた部屋で静かに読書ができる。公園でも、遊具が安全に使えるよう点検され、修理もされている。さらに、救急車・消防車も無料で利用できる。また、災害が起きたときには、避難所が開設されたり、被災者へ支援金が届いたりする。ふだん何気なく利用しているサービスが、どれも税金で支えられていると知って驚いた。

こうしたサービスは実は全て、税金によって支えられているのだ。税金には大きく分けて「国税」と「途方税」の二種類がある。国税は、所得税や消費税など、国が集めて使う税金で、

全国どこでも同じように受けられるサービスに使われている。教育や災害支援などの、広い範囲に関わるものが多い。一方、地方税は住民税や固定資産税、自動車税など、地域に住む人々が納める税金で、身近な暮らしのサービスに使われている。私達が日々利用している学校や公共施設には、国税と地方税の両方が使われている。

つまり、私達が「無料」と思っているものの多くは、実際には税金によって成り立っていて、国民全体で支え合っている。無料という言葉は、「本当にお金がかかっていない」という意味ではなく、「自分が今払っていない」だけのことなんだと気づいた。今までの無料サービスへの見方が変わった。

税について学び、色々な施設やサービスの裏側を知ること、無料の本当の意味を考えるようになった。税金は、誰かが困ったときや必要とするときに、さりげなく支えてくれる仕組みだ。「無料だからラッキー」と思うだけでなく、「その背景には多くの人の支えがある」と感謝する気持ちを持つことが大切だと感じた。

これから私は、大人になったら税金を納める立場になる。そのときには、「社会を支える一員になるんだ」という意識を持って、無料に見えるものの価値を理解し、よりよい社会をつくるために役立てる大人になりたいと思う。そして、自分の納めた税金が誰かの安心や助けにつながっていると感じられたらうれしい。

私たちの出番

八王子市立宮上中学校

三年 中 田 稔 々

私は前まで、「税金なんていらんのではないか」と思っていました。大人が一生懸命働いて得たお金から、強制的に取られてしまうなんて、かわいそうだ」と感じていたからです。もし税金がなければ、その分好きな事に使えるのにと考えていました。

しかし、生活の中で少しずつ「税金があるから助けられているんだ」と気付く事が増えました。私は母子家庭で育ちました。母が一人で働きながら私を育ててくれています。時々生活が大変そうに見える事もありましたが、学校の授業料や給食費が安くなる制度があり本当に助かりました。そうした制度も税金があるから続けられていると知った時、「税金があるから安心して生活できているんだ」と実感しました。

学校でも税金のありがたさを感じます。教科書や黒板、体育館や図書館などは、全て税金で整えられています。母子家庭でも、私が他の友達と同じように勉強できているのは、税金のおかげです。もし無かったら、勉強のチャンスすら無かったかしれません。

また、病院に行った時にも税金の力を感じました。私は体調を崩して入退院を繰り返していました。その時、少ないお金で

診察してもらえました。もし全部が自己負担だったら、母に大きな負担を掛けてしまったと思います。安心して病院に行けるのも、税金のおかげです。

さらに、災害の時にも税金は欠かせません。地震や台風の二ユースで、消防車や救急車がすぐに出勤し、人を助ける姿を見ました。それも税金で支えられているのだと知り、「自分や家族が困った時に助けてもらえるのは税金のおかげだ」と思いました。

こうして考えると、税金は「大人からお金を取る嫌なもの」ではなく、「みんなで支え合うために必要なもの」だと分かりました。

これから私は社会人になり、働いて収入を得るようになります。その時には、私自身も税金を払う立場になります。正直に言えば「自分のお金が減ってしまうのは嫌だな」と思うかもしれません。でも今まで税金で支えてもらったからこそ、今度は私が社会の一員として支える番だと考えられます。

社会人になったら、まずはきちんと税金を納め、責任ある大人になりたいです。そして、税金がどう使われているのかにも関心を持ちたいと思います。無駄に使われていないかを知ること、国を良くするために大切だと感じるからです。

また、自分の力を伸ばし、仕事を通して人の役に立てるようになりたいです。母子家庭で育って税金に守られてきた私だからこそ、今度は誰かを支える側になりたいと思います。地域の活動にも参加し、人を助けられる大人になりたいです。

「好き」を守る原動力

八王子市立第二中学校

三年 笠井 佑衣

私は夏が好きだ。夜空を彩る花火の音、クーラーの効いた部屋に届く蝉の声、お祭りの灯りと騒がしき、海辺に響く笑い声。そんな日本の夏の風景に毎年、心を奪われる。

「この景色がずっと続けばいいのに。」

今年もそう願っていた時、この作文の課題が出された。「夏と税にはどんな関係があるのだろうか。」そんな疑問を抱き、私は調べてみることにした。

日本各地で開催されるお祭りや花火大会では、多くの屋台が立ち並ぶ。屋台で販売されている食べ物や飲み物にも、実は「消費税」が含まれているのである。また、こうしたイベントが安全に実施されるよう、警備員の配置や交通整理、仮設トイレやゴミ箱の設置と、さまざまな準備が行われる。さらに、会場の設置や照明、音響設備などにかかる費用も含め、これらは地方法自治体が集める「地方税」によって支えられている。つまり私たちは、ただ「楽しむ」のではなく、税金を通じて「地域の一員」としてイベントづくりに関わっているのだ。

その他にも、夏に人気のある海水浴場やプールも税金が活用されており、監視員の配置や施設の整備、清掃活動など、安全で快適に過ごすための取り組みが行われている。

また、夏は旅行に行く機会も多いが、近年では観光地でオーバートリズムが問題になっており、その対策が求められている。現在、一定の金額以上の宿泊に対し、「宿泊税」という税が導入されている地域もある。観光地などの環境や暮らしを税金で守ることも、税の本来の役割なのだと思う。

そして、私自身の身近な例として、最近では私の市でも教育環境の向上と避難所としての機能の充実を目的に、市立中学校六十六校の体育館に空調設備が設置された。こうした設備も税金によって実現されており、私たちはそのおかげで心地よい生活を送れている。

「税を払う」

当たり前のように行うこの小さな行動が、やがて大きなひとつの感動へと変わる。私が「好き」な夏は、税金という存在に支えられていることで成り立っていたのだ。「税」と聞くと、批判的なイメージを持たれがちな今の世の中。そんな今だからこそ、もう一度よく考えてみてほしい。本当に「税」は悪いだけの存在なのだろうか？ あなたのまわりに溢れている「好き」の世界こそ、「税」の力で守られているのではないだろうか。税金は、誰かの「好き」をそばで支え、そつと守り続ける力がある。私は、将来そのお金が誰かの「好き」を守る力があると信じて、「税を払う」という行動に誇りをもって向き合える大人になりたい。

私は夏が好きだ。

だからこそ、気づけた。

税は、「好き」を守る原動力なのだ。

「当たり前」であるように

八王子市立別所中学校

三年 眞山 心花

私は図書館をよく利用する。本を借りるのはもちろん、自習スペースをテスト勉強に活用している。図書館が公費で運営されていることは知っていた。だが、実感はなかった。「当たり前」だと思っていた。それが間違っていることを知ったきっかけは、給食だった。

私の住む八王子市では、二〇二四年の九月から給食費が無償化された。家庭の経済的負担が軽くなり、私の家庭も喜んでいった。

しばらくして、気になる記事を見つけた。「全国の自治体の中で、給食費を無償化していたのは約四割（令和五年九月時点）。」というものだ。この時、私は疑問を抱いた。素晴らしい取り組みにもかかわらず、なぜ実施しない自治体があったのだろうか。

調べてみたところ、給食費無償化にはメリットと課題があることがわかった。メリットは子育て世帯の負担軽減、子どもの健康増進などがある。一方で課題は、自治体間で格差が生じる可能性がある。自治体の負担が大きくなることだ。では実際の場合、いくらかったのだろうか。八王子市では、二〇二四

年の事業費は約十一億円だった。支出が多かったため、無償化できない自治体もあったのだろう。私は気づいた。メリットしか見えなかった施策でも、その裏には複雑な問題が隠れているのだ。私がよく利用する図書館にも課題はあるかもしれない。

さらに調べてみたところ、利用者の減少や財政難で実際に廃止されてしまった図書館もあるようだ。少子高齢化で、社会保障の費用が増加し、税金を負担する現役世代が減っていく。この時代の中で、生きるのに必須ではない図書館をなくするのは、やむを得ない場合もあるのだろう。誰もが無料で本を読める、勉強ができる。そんな世界は「当たり前」ではなくなるかもしれない。

これを知ったあとも図書館に行った。冷房、新しい本、備え付けのコンピューター、貸し出しをしてくれる職員さん、すべてが違って見えた。自分が公共サービスの恩恵をどれだけ受けていたかを感じられた。この発見は、税金の使い道について深く考えるきっかけになった。

税金は、「負担が重い」「財源が足りない」といった文脈で語られがちである。しかし、限られた税収をどう使うか考えることも重要なのではないか。私も十八歳になれば選挙権を手にする。税金の使い道を決めるのは私たちだ。「当たり前」を守るために。問題から目を背けず、考えていきたい。

税の本質を 探る

八王子市立柵田中学校

三年 井 上 俐 乃

私は税というものに親しみを覚えたことがない。そもそも、税は漠然とお金を消失させる悪のような印象を抱く人もいるのではないだろうか。偏見をもたないために、個人的にあまりよく知らない所得税について知識を深めようと思い、本文を書くにいたる。

所得税とは、労働者が働いて得た収入から必要経費を差し引いた残りの「所得」にかかる税である。調べてみたところ、計算が少々厄介であった。今回は累進課税のみに言及する。累進課税とは、所得の額に対応してかかる税率のことである。例えば、百九十五万円以下の所得であったら、かかる税率は五パーセントである。それに対し、四千万円以上の所得であれば、四十五パーセントの税率がかかる。所得が低いほど税率が低く、所得が高いほど税率も高くなるという原理だ。「富の再分配」の役割を担っている。この制度によって、経済的な格差が生じないようにしているのだ。「制度」には規則や義務的な意味を強く感じてしまう。そのため、税の制度における配慮に目を向けることがなかった。

このような配慮に目を向けることがないのは、表面的な事柄にばかりに注目しているからだ。累進課税制度を知る前は、税

率などの数字ばかりに目を向けていた。物事の本質に踏み込まないという点では固定観念や偏見と似たところがある。目を向けるべきは本質である。

昨今は、情報社会であり、入手したい情報が簡単にインターネットで流れてくる。主にニュースは常に更新され、関心はすぐに移り変わる。そこで、私は一時の表面的な知識だけで完結させないため、税を「払う」感覚をきちんともってほしいと思う。当たり前ではある。しかし、「払う」行為は税を実感的に感じられる身近な機会である。これは税についての認識をはつきりとさせる。そして自分事として考えられるため、様々な疑問が生じる。この税率は果たして適切か。公平さという観点で適切か。そもそもどのような観点で税制が存在しているのか。一人一人が税への認識を確固たるものとすべきだ。

自身そして社会全体の税の正しきについて考え続け、よりよい社会のあり方を模索していきたい。

小さな意識で、明るい未来へ

八王子市立上柚木中学校

三年 三 田 朱 莉

私の家には、ごみ収集カレンダーがある。

可燃ごみ、不燃ごみ、ペットボトル。カレンダーに並べられた文字に、私ははじめ「なんだこれ」と顔をしかめたのを覚えている。カレンダーを眺めていると、ふと、なんで分別しなければならぬのだろう、と考えることがある。その答えの一つが、「税」だと気づいたのは、つい最近のことだ。

きっかけは、母との何気ない会話だった。「またごみの分別？面倒くさいなあ」そう私がこぼすと、母は少し寂しそうな顔で言った「税金で処理してもらってるんだから、ちゃんと分別しないと、もったいないよ」税金とごみ。最初は結びつかなかった。でも、詳しく調べていくうちに、税金が私たちの生活の隅々にまで行き渡り、支えていることを知った。

例えば、私たちが毎日利用する道路。その整備や維持には、莫大な税金が使われている。もし税金がなければ、道路はボロボロになり、安全な移動は難しくなるだろう。

通っている学校もそうだ。授業料は無償で、教科書も配布されている。これも税金のおかげだ。もし税金がなければ、教育を受ける機会も失ってしまう子どもたちがたくさんいるかもしれない。

病院に行けば、医療費の一部を負担するだけで治療を受けることができる。これも税金のおかげだ。もし税金がなければ、病気や怪我で苦しむ人々を救うことができないかもしれない。税金は、私たちの生活を支えるだけでなく、未来を創る力にもなる。

科学技術の研究開発には、多額の税金が投入されている。そのおかげで、新しい技術が生まれ、私たちの生活はより豊かになる。再生可能エネルギーの開発もそうだ。地球温暖化対策として、税金が積極的に活用されている。もし税金がなければ、地球の未来は危ういものになるかもしれない。

しかし、税金はただ集められ、使われるだけではない。その使い道は、私たち国民が決めることができる。選挙を通じて、私たちの代表者を選び、私たちの意見を政治に反映させることができる。税金は、私たち国民一人ひとりの「豊かさ」を守り、未来を創るための、大切な「投資」なのだ。

以前、ニュースで政治家の税金の無駄遣いが報道されていた。それを見て、私は怒りを感じた。しかし、同時に自分自身はどうだろうか、と自問自答した。私は、税金を無駄にしているだろうか。電気をつけっぱなしにしているだろうか。水を出しっぱなしにしているだろうか。物を大切にしているだろうか。そう考えると、反省すべき点がたくさんあった。税金は、他人事ではない。私たち一人ひとりの問題なのだ。だから私は、今日から意識を変えようと思う。電気をこまめに消し、水を大切に使い、物を最後まで大切に使う。小さなことかもしれないけど、それが、税を大切にすることに繋がると信じる。

ごみ処理に生きる税金

八王子市立第七中学校

三年 早川 竜 生

税金は、納めることばかりに意識が向きがちである。しかし、その一方で納めた税金をどのように使うことも大切なのではない。

私は税金がどのようなことに使われているのかよく知らず、税の必要性について深く考えたことがありませんでした。そこで、税についてインターネットで調べてみると、医療や介護、上下水道の整備、ごみ処理費用など、私たちの身近な事柄に使われていることが分かった。私の父はごみ処理の担当部署で勤務しているので私たちの暮らしの中でなくてはならない「ごみと税の関わりについて調べてみた。

私が住んでいる八王子市は、ごみの排出量の少ない自治体ランキング「人口五十万人以上の都市」において、三年連続で全国一位になっている。市のホームページで調べてみると、一日に一人あたり約六百七十グラムのごみが排出されていること。それに伴って、市民のごみを処理するために約九十二億五千万円の税金が使われていることが分かった。つまり、この大量なごみを処理するために、市民一人あたり約一万六千五百円使われていることになる。私は、ごみの分別も基本すっかりできていて、一人あたりのごみの量も少なく、ごみ袋を有料で購入し

ているのにもかかわらず、多額の費用が必要とされていることに非常に驚くと同時に疑問を持った。そこで父に仕事の内容について聞いてみると、ごみを単純に収集しているわけではなく、「ごみ焼却施設の運用」・「資源物の収集や選別」・「リサイクルの推進」など多くの仕事や課題があり、その費用が税で支払われているということが分かった。つまり、税が無かったら私たちの住む町も道端にごみがあふれ返り、ごみで健康被害の絶えない環境となることが考えられる。例を挙げると、実際に発展途上国などでは、ごみの処理が追い付かずプラスチックによる海洋汚染のニュースもある。そう考えると私たちが納めている税はなくてはならない存在である。普通に「ごみを捨てれば回収されて清潔な環境を維持できる」という、当たり前のように当たり前でない日常は税によって支えられているのだと感じました。また、私たちの環境への配慮や三Rへの意識などの小さい一つ一つの努力が大切だと思った。

税は私たちの生活を支える大切な存在である。しかし、世の中には税について否定的な意見もある。それを理解した上で多面的に物事を見て税についてもっと良く知り、未来のために貢献できるような人になりたいと思う。

幸せの循環を みんなで

八王子市立城山中学校

三年 松浦 咲

ニュースで税金の話が出たときに、母が「国によって税率は違う。高いから悪い。低から良いわけではない。」と言っていたのを思い出し、世界の税について調べてみようと思った。調べてみると、標準税率が最も高い国はハンガリーでその次はフィンランドだった。一位から五位までを見て私はほとんどが北欧の国々であることに気付いた。

それらの国の税金が高い理由を調べると、日本と北欧では税に対する考え方が違い、北欧では、良いサービスを受けるために高い税金を払う「高福祉高負担」、日本は最低限のサービスで負担の少ない金額の「低福祉低負担」の考え方であることが分かった。

北欧の国々では、子供の学費が大学まで無料だったり、二十歳までの子供の医療費が無料である。また、日本でも問題になっている出産の費用も無料で非常に子育て、教育に力を入れているのが分かった。

老後についても調べてみた。するとやはり日本との違いがあった。北欧では「老後や病気の心配が少ない」と言う人が多い。老後の負担はその人個人ではなく国にあるため、経済的な不安が少ないからだ。施設、サポートが充実しているため、スト

レスも少なく安定した生活を送ることができる。また、大きな病気になって手術をすることになってもほとんど無料のため貧しい家庭でも安心して受けることができる。これらは大きな利点であり、老後の心配がないということは個人も楽であり、その家族も介後の心配がなくなるので、安心して出産、子育てができる。

日本はどうか、日本は年々、少子高齢化が進んで一人あたりの負担が大きくなり、経済への不安が大きくなっている。先が見えない中で子供を生んで育てようと思うことは難しい。

北欧の国々のように、子育て老後の不安をなくすには、サービスを向上しなくてはならない、向上させるなら税金も上げるだろう。すると批判、反対する人が出てくる。反対する理由の一つとして税金の使い道が不透明であることが挙げられる。使い道を透明化し、国民が納得して税を納められるようにする必要がある。そのためには国民全員が積極的に政治に参加し声を上げ、批判ではなく協力することが一番重要なことではないかと考える。

幸せは待っていてもつかめないから、自分たちでつかみにいかなければならぬ。「生まれてきてよかった」と思えるような国にするために、国も国民も「日本を変える覚悟」を持たなければならぬ。

税のもたらす恩恵

八王子市立宮上中学校

三年 末 竹 佑

僕は小学生の時、日本の最南端、沖ノ鳥島は莫大な税金を使って護岸工事や消波ブロックの設置などの保全活動を行い、保護されていることを知った。保護しなければ海によって削られたり、沈んでしまったりするという。当初はあんなに小さな島と呼べるのかも分からないくらい土地をどうして国が必死に税金を使って守っているのか、とても疑問に思った。せっかく国民が納めた税金を無駄遣いをされているような気分では少し納得がいかなかった。

しかし調べてみると、沖ノ鳥島が日本にもたらす恩恵はたくさんあった。もしも沖ノ鳥島がなくなってしまうと日本は、日本の国土の三十八万平方キロメートルよりも大きい、四十万平方キロメートルもの排他的経済水域を失ってしまう。カツオやマグロ類などの海洋生物資源、マンガン団塊やメタンハイドレートなどの海底鉱物資源に対する日本の主権的権利を失い、他国に利用される事になる。そのため、日本は約一兆七千億円相当の経済的損失が生じてしまう可能性があるのだ。また中国など、周辺の資源に注目する国々との間に、漁業や資源採掘を巡る新たな争いが発生する可能性があること示唆されているため、沖ノ鳥島を守る事は日本の安全を守る事と直結するのだ。沖ノ

鳥島のような国土面積を広げる基点となる島を保全することは、日本の領土、領海を守り国益を保持するうえで不可欠なのだ。そして、沖ノ鳥島はこれから先も見込みがある。熱帯気候の孤島であるという特色を活かし、国際的にも意義のある防災・科学実験の場としても活用されており、日本の科学技術の発展にも貢献している。将来的には、海洋気象観測基地や海底資源探査の拠点、深層水の取水・水産利用施設、漁船の避難港など、幅広く活用が期待され、多額の税を投資することは大きな価値があるだろう。

今後、排他的経済水域の確保を巡って世界中で争いが繰り広げられていくと考える。世界人口が増え、農業や家畜に使える土地が減り、食糧不足が増える中、海から取れる資源の需要は更に増していくだろう。だからこそ我が国は多額の税金をかけてまでこの島を守らなければならない。国の安全を政府だけに任せてはならない。国民全員で協力して日本を守っていくべきだ。僕は税金を納めるのを躊躇う気持ちから払うべきという考えに変化した。僕はまだ、消費税ほとしか税金を納める手段がない。将来大人になったら国のため、国民のために税を納めるという意識を持ち続けていきたい。税が未来にもたらす恩恵を理解し、政府を信じて税を納める事が今の私達にできる事なのではないだろうか。みんなで助け合うことができ、国の未来をも支えられる、それが「税金」なのだ。

守りたい景色のために

八王子市立浅川中学校

三年 本井 咲 希

私の地元には、全国から観光客が訪れる自然豊かな観光地があります。四季折々の美しい風景は、私たちの誇りです。驚くのは、その清潔さです。観光客が多いにもかかわらず、ゴミ一つ落ちていないのは、「ごみの持ち帰り運動」が根づいているからです。ボランティアの方々が清掃に取り組み、環境を守ってくださっています。

職場体験でもこの観光地で清掃活動を体験しました。そのとき、多くの観光客の方が、

「ありがとう。」

「くっささま。」

と声をかけてくださり、心が温かくなりました。しかし、木の陰に隠すように捨てられた空のペットボトルやお菓子の袋を見つけたときは、悲しい気持ちになりました。多くの方がルールを守ってくださっているからこそ、一部の心ない行動が余計に目立ってしまうのです。

そんなとき、私は「観光税」という制度を知りました。観光地を訪れる人から少額の税金を集め、その地域の清掃・美化・自然保護などの整備にあてるといいます。日本の一部だけでなく、ヨーロッパの国々でも取り入れられているそうです。

最初は、観光客にとって負担になるのではないかと心配しました。訪れてくださっているのに、申し訳ないと感じたからです。しかし、その税は公共トイレの整備など、観光客が快適に過ごせることに直接つながっていると知りました。

税金というと、批判的な声をよく聞きます。ですが、観光税のように、すでにあるものを維持したりするための「守る税金」はもつと評価されてもいいのではないかと思います。観光地の保全は、観光客の理解や地域の人々の努力だけでは難しいところもあると思います。自然は一度こわれたら元に戻せません。だからこそ、税金という形でみんなで守ることのできる仕組みがあることは、大きな支えになると思います。税金を頭ごなしに否定するのではなく、目的を考えることが大切です。観光税のように、自然や文化を守るために使われるのなら、私は前向きに受けとめたいです。それぞれの地域にあったやり方で、必要などころに支えが届く、そんな未来のための「守る税金」が当たり前になっていくといいなと思います。

税金はどうあるべきか

八王子市立由木中学校

三年 小林 笑実

最近、私達の学校の体育館にエアコンが設置された。体育館に設置されたエアコンを見て、私は喜びと感謝の気持ちでいっぱいになった。なぜなら今までエアコンが無かったことにより大変な思いをしてきたからだ。私はバレーボール部に所属している。二年生の夏休み、いつものように体育館で練習している。室内のWBGの数値が超えてしまい練習が中止になってしまった。その日は大会前で、練習を最後までやりたかったが、数値が下がらないため帰宅となってしまった。その時にエアコンがあればいいのになと感じた。練習試合などで他の市の学校に行くところでもエアコンが設置されていた。そこでなぜ八王子市だけエアコンが設置されるのが遅いのか気になったので調べることにした。八王子市近隣の日野市や多摩市では小中学校の体育館のエアコン設置率は100%であった。それに比べ八王子市はまだ多くの体育館にエアコンが無い状態であった。八王子市はどこに税金を使っているのだろう。エアコンの設置には三千万円以上かかるといわれている。この費用を税金から出せないことには何か理由があると私は考えた。

まず始めに八王子市の人口について調べた。全体の人口は約五十六万人で、十四歳までの人口は約五万八千人、六十五歳以上

上の高齢者が約十五万人とつば型の人口ピラミッドを形成していた。八王子市は少子高齢化が特色として挙げられるほど高齢者の割合が高かったのである。他の市よりも高齢者が多いため、教育費に使われるはずの税金も、民生費に使われていたのだ。八王子市のホームページでも税金の使い道として五割が高齢者への支援やグループホームの負担軽減などに使われる民生費だった。もちろんこのお金は医療費や給食費無料などをはじめ私たちにも使われている。その一方でエアコン設置代を含む教育費は約一割しか使われていなかった。高齢者が多いことにより、教育費よりも民生費に多くの税金が使われていたのだ。これによりエアコンの設置が他市と比べ遅かったのだ。

エアコンが設置されたことにより、私達は幸せだ。暑くなく、快適に過ごすことができている。その一方で高齢者の方々はどのようなだろう。高齢者の方や成人している方にとっては学校の体育館にエアコンがつくことによるメリットはほとんど無い。むしろそんなことに税金を使わないで高齢者の費用負担に使えばよいと思う人も多くいるだろう。そんな時、市民全員に考えてほしいことがある。税金とは何だろうと。税金は市民全員が豊かに暮らせたり、困った時に助けてもらうために使うべきだと私は思う。だからお互いの立場に立つて考え、税金を上手に活用できるとよいと思う。税金は誰かを救うためのものであってほしい。改めて税金によりエアコンを設置してくれてありがたく思う。私が大人になってもみんなのための税金を払い続けたい。

「見返りを求めない」ふるさと納税

八王子市立由井中学校

三年 中 村 幹 玖

最近、テレビでふるさと納税のCMをよく見かける。以前我が家でも初めてふるさと納税を利用し、好きな返礼品が貰えて自治体の応援にもなるなんて、素晴らしい制度だと思った。しかし、先日「ポイントを付与する仲介サイトを通じて自治体が寄付を募ることが今年の十月から禁止される」というニュースを耳にした。去年の十月にもふるさと納税の法が改正されたそう。なぜこんなにも規制が行われるのか気になり、私はふるさと納税について詳しく調べてみることにした。

ふるさと納税とは、「納税」とついているものの、実際は「寄附」であり、生まれ育った故郷や応援したい自治体に寄附ができる制度だ。平成二十一年に、都市部と地方の地域間格差を改善し、地方創生を目的としてふるさと納税は開始された。確定申告をすれば、自己負担額二千元を除いた額が控除される仕組みで、寄附のお礼として自治体から返礼品が贈与される。これだけを見れば両者が得をする良い制度のように思える。

しかし、問題点も多く見つかった。返礼品が過度に重視される返礼品競争によって、ふるさとを応援するという寄附本来の趣旨が損なわれているというのだ。ある自治体では還元率の高い商品や地場産品以外の商品を返礼品として提供するなどし

て問題になった。他にも、私の住む東京都では累計で約九千四百億円もの、本来都民のために使われるはずだった税金が制度により流失しているそうだ。

たしかに、ふるさと納税によって教育や医療の拡充が行われたり、災害で被害を受けた地域で復旧・復興が進んだり、良い面も少なくない。

しかし、先ほど述べた「寄附」の観点から考えてみるとどうだろうか。私には、大半の利用者が「お得な制度」としてばかり認識しているように思える。このような現状では、本質的な意味で地域を応援することにはならないのではないだろうか。

日本の有名な昔話に、「笠地蔵」がある。おじいさんがお地蔵さまに、雪が積もって寒そうだと売り物の笠や手拭いを被せてあげた。すると、お地蔵さまが財宝や御馳走を贈り届け、おじいさんとおばあさんは幸せに暮らすことができた、という話だ。おじいさんは見返りを求めずにした親切により大きな幸を得た。

ふるさと納税も、本来は「思いやり」の気持ちで行うもののはずだ。制度を通して地域に寄附することは未来を育てることであるだろう。「返礼品のために寄附をする」のではなく、「応援したいから寄附をする」という、そのような使い方が広まっていけば、よりよい未来にも繋がっていくと思う。

そして、私自身も地方や税金について関心を持ち、「見返りを求めない」ふるさと納税利用者になりたい。

身の回りの税金と私たちの未来

八王子市立鑑水中学校

三年 小 峯 朋 季

「税金」という言葉を聞くと、多くの人は難しい、縁遠いものだと感じるかもしれません。しかし、実は税金は私たちの生活に深く関わっており、私たちが安心して暮らしていくために不可欠なものです。私も中学生になって、社会の仕組みを学ぶ中、税金の役割について考えるようになりました。

税金は、私たちの周りにあるさまざまな公共サービスを支えています。例えば、私たち学生が利用する学校、病気から救う病院、そして安全な毎日を守る警察や消防。これらはすべて、税金によって運営されています。もしこれらのサービスがなければ、学ぶことも、病気や災害から身を守ることもできません。税金は、私たち一人一人の安全で豊かな生活を可能にするための、日本の「会費」のようなものだと言えるでしょう。特に、私たちの学校生活を振り返ると、税金の恩恵を強く感じます。清潔な教室、快適な体育館、授業で使う教科書や実験器具。これらはすべて、税金によってまかなわれています。私たちが自由に学び、友達と笑い合い、成長できる環境は、多くの人々の支えによって成り立っているのです。また、税金は「助け合い」の精神を具現化したシステムでもあります。例えば、高齢者や障がいを持つ方々、貧困に苦しむ方々を支援するための社

会保障制度も税金で支えられています。税金を納めることで、困っている人々を助け、自分自身が困ったときには助けてもらうことができます。私も、将来社会の一員として税金を納め、困っている人々に手を差し伸べられるような人間になりたいです。

しかしながら、税金には何に使われているのか見えにくい部分が多いです。だからこそ、税金が公平で公正に使われているか監視したり、将来私たちのような若者も税金の使い方について関心を持ち、社会のあり方を今一度考えたりすることなどもまた大切になってきます。税金は、決して一方的に取られるものではありません。それは、私たちの未来を築き、社会をより良くするための「投資」でもあります。そして、いずれ道路や橋などの公共物、高齢者や障がいを持つ方々への社会福祉費、次世代を担う子どもたちへの教育費となります。

私は、この作文を通して税金が単なる義務ではなく、未来を創るための希望の光であることを再認識しました。私はまだ税金を納める立場ではありませんが、これからの学校生活で、社会の一員としてどうあるべきかを考えながら、たくさんの方々と学びていきたいです。そして将来、税金を通して「助け合い」の輪を広げていきたいと強く思います。税金は、私たちがより良い社会を築いていくための大切な「会費」であり、未来への「投資」であるということを信じています。

私の夢と税金

八王子市立鍾水中学校

三年 土手 柚奈

私の将来の夢は国民の税金で支えられている職業だ。

私は移り気な性格だが、最近諦めたくないと思う夢ができた。それは警察官だ。だんだんと警察官の仕事を知るたびにその魅力に惹かれていった。警察官は公務員だから税金から給料が支払われている。そのことで公務員に向けて「ずるい」や「税金どろぼう」などの声を聞くことがある。実際私も決して稼いでいるのかなと思ったこともあるが、今一度税金で仕事している人の大変さや税金のありがたみについて考えてみた。

警察官の給料は私達国民が支払った税金から出されている。もし、警察官の給料が税金から出されていなくなったら、一つの事件の捜査の依頼や、警察官への相談が有料になってしまう。パトロールが減り、今もより安全ではなくなるかもしれないし、多くの人が代金を支払わずに苦しい思いをしてしまうかもしれない。だけど税金があり、定期的に私達が払うことでいつても警察官に頼ることができる。また、少しでも今の安全も未来の安全も保証される。この仕組みのおかげでこの国が安全になるのはとても良いことなのではないかと私は思う。私達が支払った税金で国が豊かに、安全になるのは支払った側としても嬉しい。さらに警察官は人の命に関わるプレッシャーや急な事件

対応など大変な仕事や、命の危機に関わる仕事をしている。警察官以外にも公務員の仕事は大変で、仕事を頑張っても給料が変わらなかったり、異動が多かったりする場合がある。そんな自分たちのために大変な仕事をしてくれている人が税金から給料をもらうのは相当な対価ではないか。しかも、税金どろぼうと私の将来の夢が多くの人にそう思われていたら悲しいし、国民に感謝されることがやりがいだから、やりがいがなくなってしまう。だから税金どろぼうなんて思わないでほしい。私は自分が払っている税が憧れの警察官や大変な公務員の支えになっていると嬉しい。

自分たちの身の回りを見ると、税金によって作られたものがたくさんある。私達が通っている中学校、けがや病気を直してくれる病院、よく遊んでいた公園など日常生活において必要不可欠なものだ。そんな必要不可欠なものが税金で作られるのはありがたいことだ。

私は自分の夢を追って、さらに支払う税金が無駄ではないことを伝え、税金で作られたものを使っているときには税金を払ってくれている人たちに感謝したい。

税金の任務

八王子市立第七中学校

三年 永積 花

夏休みに祖父母の家へ遊びにいった。祖父母には今住んでいるところとは別に、古い家がある。八十歳もだいたい過ぎ、その家の管理が難しくなってきたので、売ろうという話をしていった。

そこで聞こえてきたのが「税金が高いよね」という言葉だった。私はその言葉を聞いてふと思った。自分の持ち物を売するのに税金がかかるのは変だな。と。どういう事だろうと少し耳を意識的に傾けてみた。どうやら家を売ってその代金を受け取る時に税金としてその中からお金を支払わないといけないらしい。自分の物なのに税金を払うとは何とも不思議な仕組みであると感じた。ちよつと納得がいかない気がした。

祖父にそのまま疑問をぶつけてみた。なぜ自分の持ち物なのにそれを手放すだけで税金を払わなくてはならないのか、と。祖父は言った。「富の再分配だよ。」と初めて聞いた言葉だ。もしかすると社会を学んできた時に聞いたのかもしれない。でも実感がなく深く考えたことはなかった。そこで私はインターネットで調べてみた。「富の再分配とは租税や社会保障、公共事業などを通じて総所得金額の多い世帯から別の総所得金額の低い世帯へと所得を移転させて、所得格差を抑えること」と書

いてあった。それは貧富の差を緩和させ、階層の固定化とそれに伴う社会の硬直化を阻止して、社会的な公平と活力をもたらすための経済政策の一つであるとされているとのことである。

私はそれを知ったことだと思った。変なシステムだなと思ったが、そうとばかりは言えないのではと。これは募金のような感覚に近いと感じた。募金はもちろん自由であり、善意に基づく行為だが、富の再分配という観点では同じである。募金であれば自分に余裕があれば困っている人のことを思えば気持ちよく行う事ができるが、強制となると感覚が違ってくるが、要するに同じ事である。その先に困っている人たちがいて困っていない人たちが余裕のある分の中の少しを提供して、社会を潤滑化させるという仕組みは大切な事だ。富の再分配とは税金の立派な任務であるということを知った。

私たちは税金が高いとかそういう観点で話をする事が多いが、税金の役割を認識することで受け取り方が変わってくると私は思う。今回の話をきっかけに税金の任務を私たちがまず知ることがとても大切であると感じた。まだまだ知らないことばかりではあるが、あたりまえをあたりまえと思わず、たまにはもしこれがなかったらなどと疑問を感じながら歩んでいきたい。

新たな税制を

八王子市立第二中学校

三年 夏 井 音々翔

日本は現在「少子高齢化」という大きな問題を抱えています。働き手が減少することで税金を納める人が減るのに対し、高齢者は増えていくため必要な年金や医療費など費用が増加します。私はこのままでは若者の負担が大きくなる一方だと考え、新たな税制の提案と若者の政治への関わりについて書きます。

まず初めに私が提案する税制についてです。それは「添加物の多い食品に課税」です。税金の使われ方で最も多いのが年金ですが、次に多いのが医療費関係です。私は通院する人が減少すればそこに割く費用も軽減されるのではないかと考えました。そうなるには通院しなくてもいいような健康な体を作ることが必要です。

ではどのようにして健康な体を作るのでしょうか？私は食生活に注目しました。同級生に野菜や肉、魚が嫌いで全く食べない人やお菓子でお腹を満たしている人がいます。これは良い食生活とは言い難いです。また、大人や高齢者でもよくスナック菓子を食べます。食べるのがだめという訳ではなく、食べる頻度や量によってはいいと思えないということです。体は全て食べ物からできています。体に必要のない添加物が入ってい

るものには課税し、お菓子を食べる量を減少させ、健康な体を作ることを目的としてこの税を作ってほしいです。また、実際にこういった税がある国もあるため日本も真似してほしいです。

また一方で、二十代で選挙に参加しているのは約三十五%だと知りました。税に関することを決めるのは政治なのに、二十代が最も選挙に参加していないのです。以前受けた租税教室で、税理士の方が「自分の一票で何が変わるかという理由で選挙に行かない若者が多勢います。ですが皆さんが選挙に行けば、減税されるかもしれないのです。皆さんが三年後選挙権を得たら必ず選挙に参加してください。」と言いました。この言葉が強く残っており、今後選挙権をもつ中高生ももっと政治に興味を持つべきだと思います。

私がここまで書いてきたことはまだまだ詰めが甘く、そんな簡単に行くものではないことはわかります。ある先生が言った「今までと同じことを繰り返していたら同じ結果がついてくる。結果を変えたいなら、今までと違うことをやりなさい。」という言葉を私は信じています。このままではいけないことは誰もがわかっています。今までの政策が現状を作っているため、何かを変えるべきです。そのためには選挙への参加や政治に皆が興味を持ち、行動に起こすことが大切であると考えます。私は中学生なのでまだ選挙や消費税以外の税金を身近に感じられないですが、実際にそれらがやれるようになったとき、誠実にやり遂げられる人になりたいです。

政治と税金の関係

八王子市立打越中学校

三年 渡 辺 果 穂

今、この作文を書いている時期には参議院選挙が行われています。立候補者の演説や話し合いを聞いていると、その内容として「税金」というキーワードをよく耳にします。

私は、政治や税金についてあまり興味を持っておらず、持っている知識も少ないです。今までなぜ税金が必要なのか、どんなところに使われているのかなども知らうと思いませんでした。そのため「日本はなぜ増税していくのだろうか？」と常に疑問に思っていました。

けれど、先日社会の授業で税について学んだとき、初めて詳しく知ることができました。例えば、病気になるたときに無料で救急車を呼べるのも、今学校に行って勉強することができるとも、すべて税金が関係しているということを知ることができました。このことを学んだとき、毎日安心して生活できるのは税金のおかげだと言っても過言ではないと感じました。

しかし、その大切な税金がどこに使われるのかを決めているのは、政治です。そして、政治を動かしているのは、政治家たちです。政治家は、私たち国民の代表として税金の使い道を話し合い、法律や予算を決めています。そのため、どのような人が政治家になるかによって、税金が正しく使われるかどうか

大きく変わってくると思います。

もし、誰もが政治家になれてしまうような世の中だったら日本はどうなるでしょう？そうなるてしまえば、きっと国はボロボロになってしまふと思います。そうならないようにするのが「選挙」です。選挙は国民一人ひとりが自分の意思で投票を行い、誰に国や地域の未来を託すかを決めます。選挙は、国民の国を政治に届ける大切な手段です。選んだ政治家によって、税がどのような使われるかは大きく変わります。このように、政治と税金は深い関わりを持っていると思います。

私はまだ中学生なので選挙権を持っていません。けれど、将来自分が納める税金、それに関係してくる政治について少しでも多くのことを知っておくのは大切だと思います。ニュースで政治や税金の話を聞いたときに、今までただ聞き流すだけでしたが、これからはそうではなく、「これはどういうことだろう？」と自分なりに考えられるようになりたいです。税金は、みんなが支え合うための大切な仕組みだと思います。だからこそ、大人になったときに困らないよう、政治や税金のことを「自分には関係ない」と思わずに、少しでも関心を持っていきたいと思います。

作品の中には、誤字脱字等が含まれる
作品がありますが、作品の性質上、原文
のまま掲載しております。